

尾張自然観察会通信

2024年8号

発行8月1日



カンザシヌホオズキ (ナス科)

原産地不明のイヌホオズキの仲間(Solanum 属)です。この仲間は似たものが多く、同定が難しいのですが、本種は実が垂れず上または横を向くことで容易に見分けられます。実の表面には強い光沢があり、テリミノイヌホオズキの変異としてカンザシ型と呼ぶ説もあります。

近年、この辺りでも増加しているようで、岩倉ではオオイヌホオズキに次いでよく見かけるようになりました。

====目次====

当面の行事案内	1
定例観察会報告	2
善師野自然観察会 (6月)	2
尾張北部自然観察会 (7月)	3
森林公園自然観察会 (7月)	4
木曽川下流自然観察会 (7月)	5
海上の森自然観察会 (7月)	6
日進岩藤川自然観察会 (7月)	7

当面の行事案内

■定例観察会

日付	場所	催行時間	集合場所	担当	連絡先
8/3 (土)	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
8/3 (土)	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
8/4 (日)	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701
8/11 (日)	木曽川下流	9:30~12:00	138タワー玄関前	齋竹	0587-37-7616
8/17 (土)	海上の森	10:00~15:00	海上の森駐車場	内海	090-9912-3686
8/18 (日)	日進岩藤川	9:30~12:30	日進市総合運動公園の駐車場	鬼頭	0561-38-2792
8/24 (土)	善師野	9:30~15:00	善師野駅前 (農道駐車不可)	平井	052-504-5223
9/1 (日)	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701
9/7 (土)	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
9/7 (土)	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304

通信に掲載したい事項やメールアドレス変更などがありましたら、下記担当者までお知らせください。

<編集担当> 齋竹善行

住所: 〒482-0007 岩倉市大山寺元町 12-3 メールアドレス: BZA03620@nifty.ne.jp

定例観察会報告

第340回 From 善師野 2024. 6. 22 (土) 晴 指導員5名 一般13名

6月の善師野は昆虫の王国です。今回はアカメガシワの葉の上で、トラフホソバネカミキリを見つけました。このカミキリ、なぜか腹部の上翅が急に細くなり、下にたたまれている翅が見えている変わった姿をしたカミキリムシなんです。なぜそんな翅なのかは謎です。3か所のアラカシでヤマユガを見つけました。この3か所の木は離れているにもかかわらず、すべてまるまると太った終齢幼虫でした。これは偶然なのでしょうか。

大洞池に浮く細い謎の水草に花が咲いているのを見つけました。花を見つけたことで、謎の水草がヒルムシロ科のホソバミズヒキモであることがわかりました。善師野にはまだまだ新しい発見があります。(平井)

		
ラミー産卵中か	まるでシュラフから顔を出した人	ヘビトンボに取りつかれた人
		
ホソバミズヒキモ！	ホソバミズヒキモ浮く大洞池	みんなで考えてみよう
		
同じ方向くオコトラノオ	コ克蘭咲きました	変な翅トラフホソバネカミキリ！

指導員 (木村、太田、山田、後藤、後藤) 5名、一般5名 計10名

木祖村の水木沢天然林に向かいました。管理棟で熊鈴を付けて出発、昼食後には雨がぱらつき始め、やがて本降りの中、原始の森コースを歩きました。サワラ、ヒノキ、ネズコ、ブナ、ミズナラなどの混交林に囲まれ、遊歩道沿いにはモミジガサ、ヤマアジサイ、ツルアリドオシなどの群生が見られ、中でも推定樹齢550年、直径2.5mの大サワラは圧巻でした。今回太古の森コースは先日の土砂崩れのため通行不能であり、巨大ヒノキを見ることも断念しました。昨年度は雨で中止、次回リベンジを果たせることを期待して水木沢を後にしました。

【観察したもの】

(草本) : ヤマホタルブクロ、タマガワホトトギス、モミジガサ、チダケサシ、ツルアリドオシ、ツクバネソウ、オクモミジハグマ、ヤブニンジン、ギンリョウソウ、ウバミソウ、キバナノヤマオダマキ、キソチドリ、ヤマキツネノボタン、ミヤマエンレイソウ等

(木本) : コバノフユイチゴ、モミジイチゴ、クマイチゴ、ノリウツギ、ヤマアジサイ、ミヤマシグレ、アキシバ、ツルツゲ、ニワトコ、コミネカエデ、ハウチワカエデ、ヒナウチワカエデ等

(昆虫) : アサマイチモンジ、オオトラフコガネ

(後藤)



熊よけの鐘



キバナノヤマオダマキ



タマガワホトトギス



オオトラフコガネ



コバノフユイチゴ



チダケサシ



ヤマアジサイ



ホソバトウゲシバ



クマイチゴ



モミジガサ



ツルアリドオシ



マンネンスギ



キソチドリ



アズマヒキガエル



ツクバネソウ

森林公園からあなたから～しどういんつばや記～

森林公園観察会レポートNo.366

【日時】2024年7月7日9時30分～12時

【天候】晴 【気温】最高37.7° 最低26.2° (名古屋)

【参加者】指導員9名(出口・木村真・木村絢・霜・小林・岡嶋・渡辺・高橋征・高橋か)、一般5名、合計14名

当日は、ちかごろ行事の情緒が廃れつつある七夕であった。最高気温は37.7°、眩むような日差しと、危険な暑さ。笹の葉がサラサラするような風情もない。熱中症アラートが発表されるなか、体調に気をつけながら観察した。集合時に木村絢子さんからポストカードのポレゼント。いつもながらの緻密な美しい植物画に皆から歓声があがった。出口さんから公園内のランの説明を受けた後、スタート。

「どんぐりの赤ちゃんがいっぱいついてる、これはシラカシね、葉っぱの形がシュッとスマート」

「これはオオチドメ、葉っぱよりも実の背丈が高いから」

「ハンゲショウの一番下の花の元の葉は、白く化粧してないのよ」

「ウシノシッペの花が咲いてる、小さなブラシみたいなのがめしべ、プラプラぶらさがってるおしべは紫色がきれいだね」

「笹の葉っぱが縦に丸まって暑さをやり過ごしてる、カタバミなんか暑さを嫌って閉じてるね」

「コ克蘭の花が咲いてる、おや、葉っぱは一株に2枚かと思ってたけど、ここいらのランはみんな3枚だ、3枚が普通なのかな？」「... 僕にはヨウワカラン...」・・・失礼いたしました。



他に観察したおもなものは以下のとおり

木の花: 竹筴ミヅ、シメツク、クナシ、私ノキ、マンリョウ

草の花: ねじバナ、ヤブカゾウ、カゾウ、ウツクスギ、

ギラン、ギボウシ、ミソギ、トウキョウセンゴケ、

オユリ(蕾)

動物: コノアガイル

画・左: 出口、下: 木村(絢) 記・高橋(か)





木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年7月14日(日) 9:30~12:00 (雨→曇)

参加者 一般:3名

指導員:太田、山田、齋竹

テーマ 草原の生き物

天気がよければ川原の植物に関心のある高校生のグループが参加したいと言っていましたが、あいにくの梅雨空で不参加。水滴がついた草で靴が濡れてしまう川原を避けて回りました。

最初にタワー近くでこの時期ならではのセイヨウツボグサの花を見ました。続いて堤防道路に出て、草が刈られた堤防で黄色い蔓を伸ばしたアメリカネナシカズラを観察しました。白い小さな花とともに、黄色の球状の虫こぶ(マダラケシツブソウムシが作るネナシカズラツルコブフシ)がついていました。近くに草刈りのせいからちょっと変わった雰囲気のカナビキソウがありました。また、道路脇のアベリアの間からオカトラノオの花茎が伸びていて、ここに生えていたことに初めて気づきました。その後、クズ、カワラナデシコ、キキョウ、オミナエシといった秋の雰囲気が感じられる花にも出会いました。

この日、見たいと狙っていたのは、最近この辺りで増えていると言われているシタベニハゴロモです。中国や東南アジア原産の外来種で、日本では2009年に石川県で初めて確認され、北陸地方から最近では中部・近畿・中国地方に生息域を拡大しています。堤防のシンジュの木を探すと、成虫のほか、黒地に白い斑点の幼虫と赤地に白い斑点の幼虫が見つかりました。成虫はベッコウハゴロモなどよりかなり大きく、後翅の赤い模様が目立ちます。果樹の害虫として、農家に警戒されているそうです。同じ木にシンジュキノカワガの幼虫もいました。中国から飛来すると言われてきた蛾ですが、日本に定着した可能性もあるようです。



シタベニハゴロモの成虫(展翅)と幼虫

天気のせいからチョウやトンボはあまり飛びませんでしたが、羽化したばかりのナツアカネの姿が見られました。ナツアカネはここではしばらく出現していませんでした。林の中からは夏らしいクマゼミとニイニイゼミの音が随所で聞かれました。ただ、例年ならもう出ているはずのアブラゼミは確認できませんでした。

前日の下見では巣立ちしたオオタカの若鳥の鳴き声が聞かれ、望遠レンズ付きのカメラを構えた野鳥ファンの姿もありましたが、今日は巣から離れたのかオオタカの気配は感じられませんでした。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

花:キカラスウリ、カワラサイコ、メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、オオキンケイギク、フタナ、ヒメジョオン、ヒナギキョウ、ツリガネニンジン、イヌコモチナデシコ、メリケンムグラ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、ミソハギ、ハンゲショウ、ヤブカンゾウ、ダイコンソウ、アキカラマツ、ホソバオモダカ、ツユクサ、ミスヒキ、ギンミズヒキ、オニドコロ、ヤブラン 実:コブシ、モクゲンジ、サンシュユ

鳥:ツバメ、トビ、ホオジロ、コゲラ、カワセミ、ヒヨドリ、キジバト、シジュウカラ、ハクセキレイ、スズメ、ハシボソガラス、ハシボソガラス、ウグイス(声)、メジロ(声) 虫:シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、ヒメウラナミジャノメ、ツマグロヒョウモン、ツバメシジミ、ヤマトシジミ、ダイミョウセセリ、キマダラカメムシ、アオバハゴロモ、ショウリョウバッタ、ヒガシキリギリス(声)

その他の動物:ウシガエル



セイヨウツボグサ



カワラナデシコ



珍しいシンジュキノカワガの幼虫



羽化したのナツアカネ

海上の森自然観察会

一般：4名、指導員：5名

2024. 7. 20

utty



ゴマダラカミキリ カミキリムシ科



ホソヘリカメムシ ホソヘリカメムシ科



ササキリの幼虫 キリギリス科



ホシベッコウカギバ カギバガ科



コロギス コロギス科



セスジナミシャク シャクガ科



ダイミョウセセリ セセリチョウ科



ハネナシコロギスの幼虫 キリギリス科

幼虫・成虫・交尾、チョウ・ガ・バッタ・甲虫と様々な昆虫でいっぱいです。(内海)



多目的広場から見た猿投山。梅雨が明けたと言ってもすっきりとは晴れ上がりませんが、風が適度に吹いて、「涼しい」と思わず声を上げたくなる場所が何カ所も見つかり、つかの間、暑さを忘れさせてくれました。木の多い公園内ではニイニゼミの声が優先しますが、耳を澄ますと、遠くでクマゼミが鳴いていました。また、ウグイスが鳴き、いなくなったと思っていたホトトギスの声も聞こえました。 (鬼頭)



ホコリタケ

芝生上にできていました。てっぺんに穴が開いて胞子を飛ばすばかりでした。(右)できたばかりの白い幼菌です。



フェモラータオオモモブトハムシ

熱帯産で日本にはいなかったコガネハムシ亜科でこの辺りにも定着しています。雄は 20 ミになり、太いクズの茎に幼虫がいくつも入った虫瘤を作ります。



ムラサキツバメ

九州南部にいたものが北上して来ました。尾状突起がありマテバシイなどに産卵します。在来種には突起のない(左)の



ムラサキシジミがいます。



カワウソタケ幼菌

サクラの枯れ木に群生。生木にも発生し木を枯らす白色腐朽菌。表面はフェルトのような毛におおわれ、やがて毛が脱落し胞子におおわれて、錆褐色になっていきます。



オナガグモ

卵のうを作り終えて一服？しているのでしょうか。細長い体で枝先に数本の糸を引くだけの網を張り、他種の蜘蛛を襲います



コガタスズメバチと獲物

スズメバチが獲物を抱えて飛んで来て、枝に止まりました。翅を落とし幼虫に肉団子にしたものを運びます。翅はニイニゼミのものでした。